

自分たちのまちは、自分たちで良くしていく

～地域の移動はみんなで作る～



一般社団法人SMARTふくしらぼプロジェクトマネージャー 小柴 徳明
社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 協力研究員

その他の資料はこちらから
https://speakerdeck.com/koshiba_noriaki



本日の資料はこちらから

https://speakerdeck.com/koshiha_noriaki



本日のお話し

- 今、福祉や地域の現場で起こっていること(現状と課題と前提)
- 一般社団法人SMARTふくしラボについて
- 地域課題解決の取り組み「地域の移動はみんなでつくる」

【仕 事】

- 一般社団法人SMARTふくしラボ
研究員/プロジェクトマネージャー
- 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会
協力研究員
- 一般社団法人コミュニティドライブ
代表理事
- 一般財団法人CSOネットワーク
リサーチフェロー

【志 事】

- NPO法人明日育（あすいく）
- 一般社団法人グリーンダウンプロジェクト
- LINEWORKSアンバサダー
- OCI-labo (community indicators labo)



ICTや新しい技術革新を活かした地域福祉の推進へ shakyo3.0

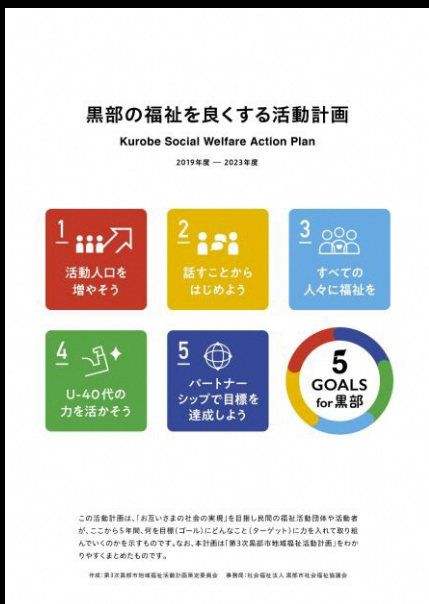
スマート社協3.0構想



【LINE botによる相談窓口】

相談のハードルを下げ、早くからのリーチをつなげるしくみ将来的な情報発信のキーとなるしくみ

一般社団法人
SMARTふくしらボの設立



【5goals for 黒部】

市民に分かりやすく伝え、みんなの目指すべきgoalを示す。

【ふくしDXの推進基盤】

社団法人を立ち上げふくし全体のデジタル化、DX推進を図る組織の立ち上げ。

【ふくしDX】

業務効率改善を行い福祉現場での人材不足を解消

民間企業との共同研究PJ



【個人活動の可視化】

社会にどう貢献したか、自分自身の活動ログが見えるようにする。



【SW-MaaSの開発】

トヨタモビリティ基金と福祉版移動シェアサービスの研究開発

【ビジネスチャット】

コミュニケーションツールで働く人がより働きやすくする。



【地域福祉分野におけるICT利活用実証実験】

支援する人が支援しやすい環境づくり

ICTリテラシーが低い、後期高齢者を支える

官民協働のプラットフォーム

※国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社日新システムズ、黒部市社協の三者協定

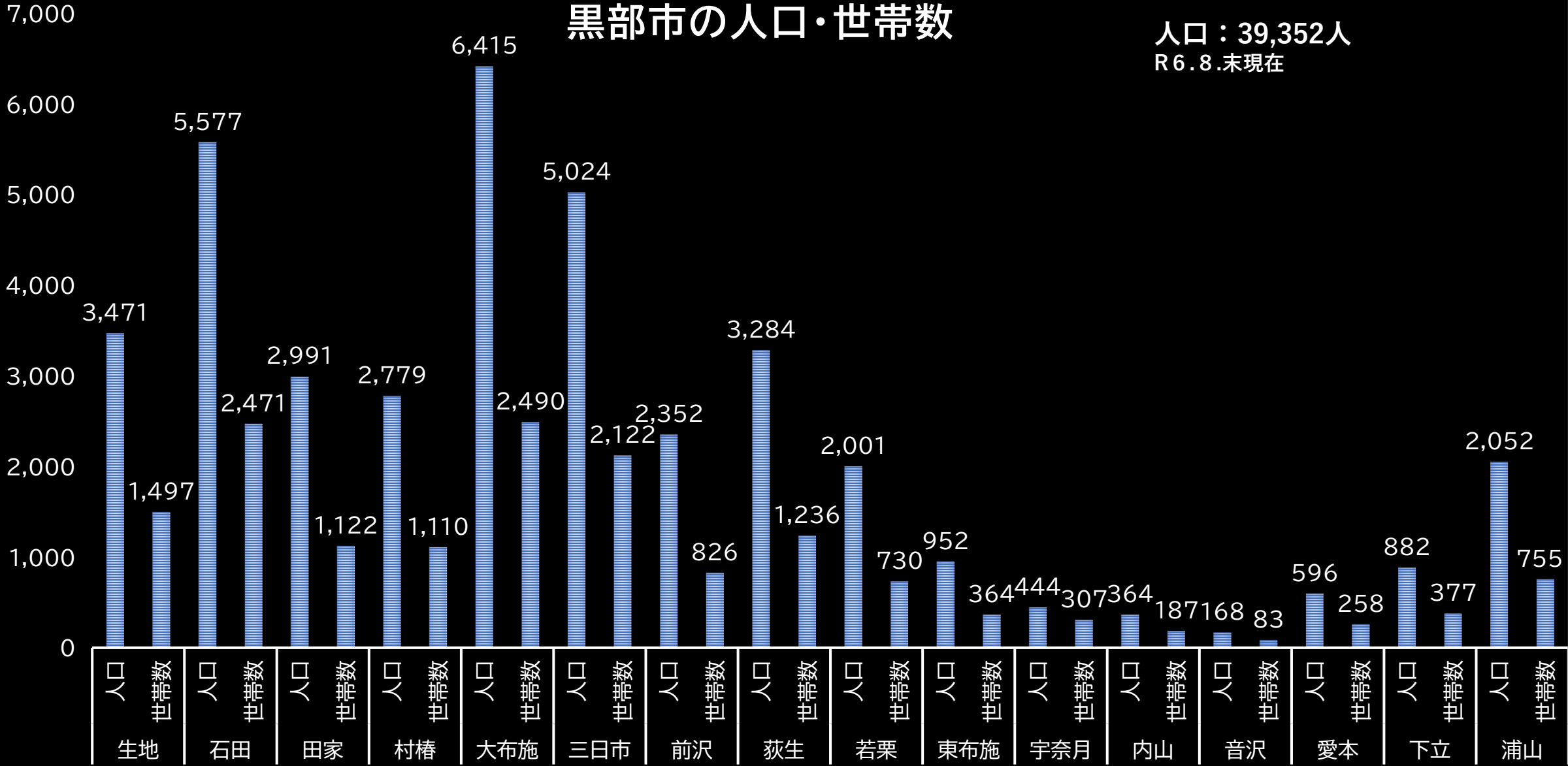


みなさんに質問

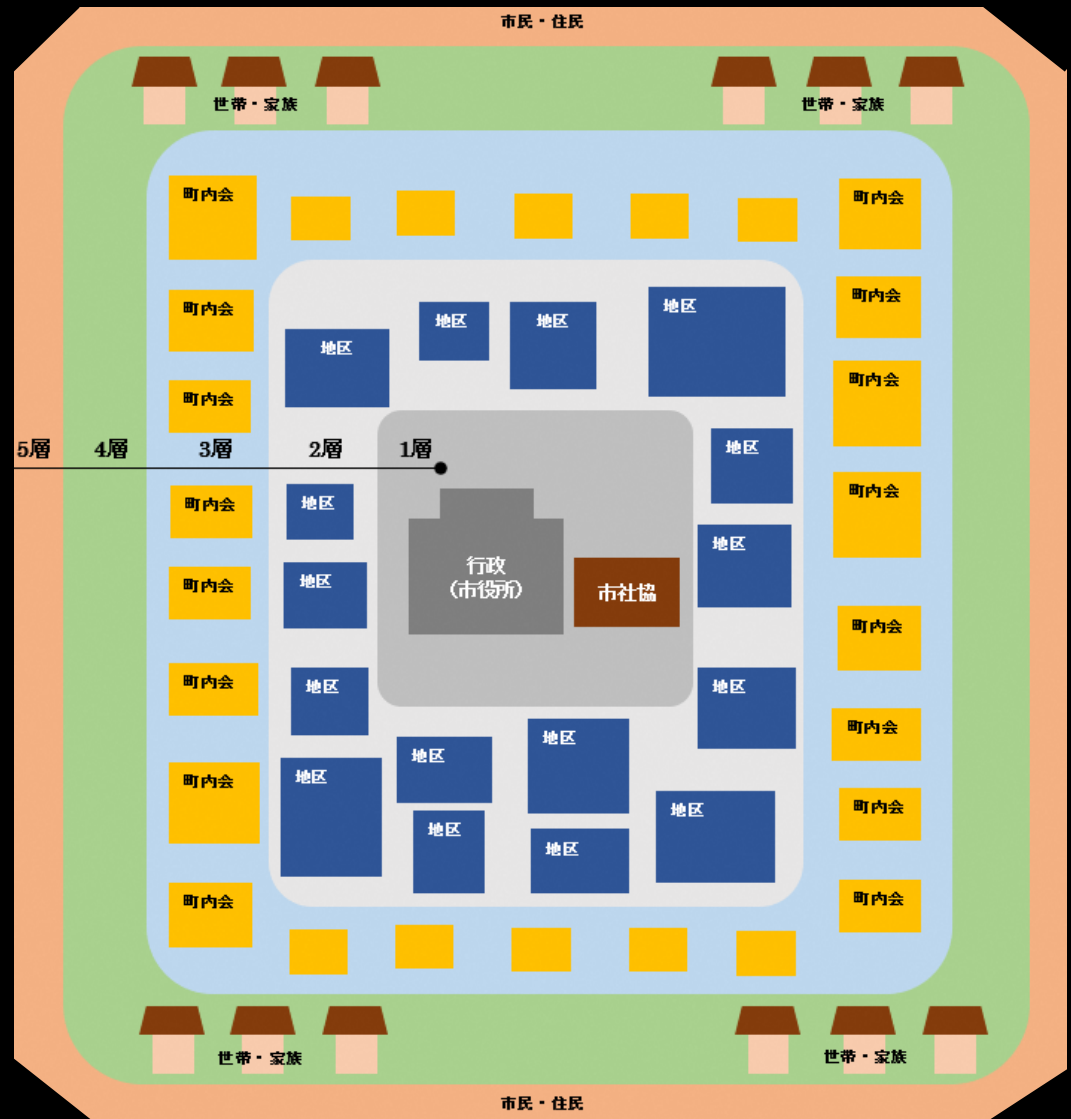
地域ってなんだ？！

黒部市の人口・世帯数

人口：39,352人
R6.8.末現在



地域の定義を整理してみる。(例えば)



みなさんに質問

地域課題ってなんだ？！

地域課題を整理してみる。(例えば)



自分の困りごと	家族の困りごと	町内の課題	地区の課題	黒部市の課題
・生きがい	・引きこもり	・担い手不足	・担い手不足	・人口減
・仕事	・生活の不安	・高齢化	・高齢化	・高齢化
・生活の不安	・病気	・世代間連携	・世代間連携	・学校の統廃合
・年金	・子育て	・まつりの維持	・人口減	・税収減

※起きている、起こる現象と課題、問題が入り乱れている。からよく分からない。。。

地域の福祉は、紙一重

【22年間の社協経験で感じた大前提】

みんな良くしようと思っている。

少なくとも・・・

だれひとり、悪くしようとは思っていない(ハズ)

住民主体のまちづくり

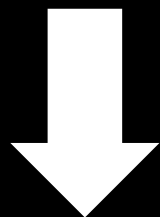
「丸投げ」か「住民が主役」かは、紙一重
責任は「行政」なのか「住民」なのか？

見守り活動

「監視」か「見守り」かは、紙一重
「義務」なのか「ボランティア」なのか？

コロナ禍における地域福祉活動は？

ふれあい・集い・支え合い



触れるな！ 集うな！ 距離をとれ！

コロナの終息後、地域福祉はどうなるのか？

①元に戻る

②活動がより盛んになる

③活動が縮小する

より良く(welfare)をどう考えるか・・・

変えていくもの、変わらないもの

ボタンを連打しても、
早くはならない





目的と手段



「運動会」は、
目的か手段か？

運動会って

運動することが目的？

年に一度の決まった事業だから？

玉入れは何かの技を鍛えるため？

「集いの場」は、
目的か手段か？

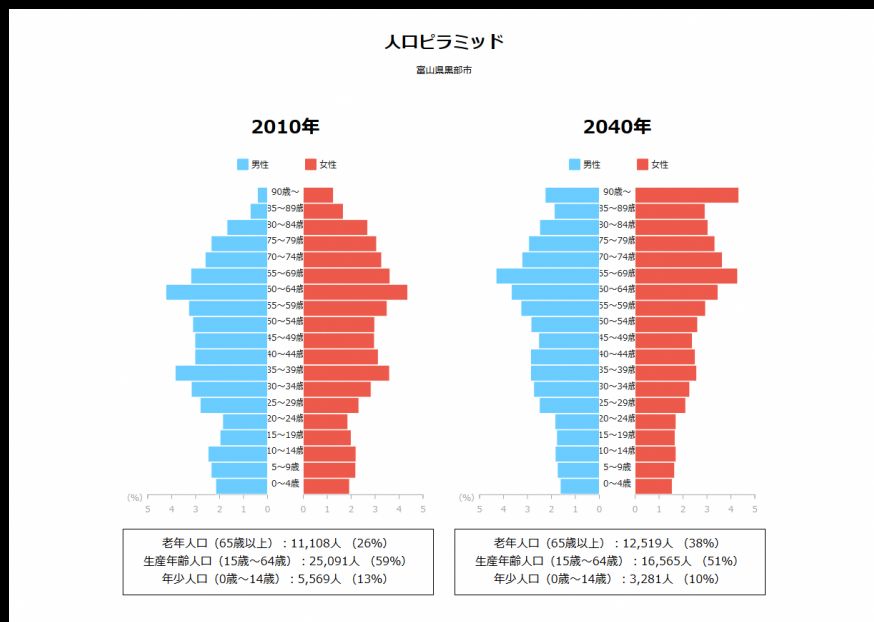


「それ」は、
目的か手段か？

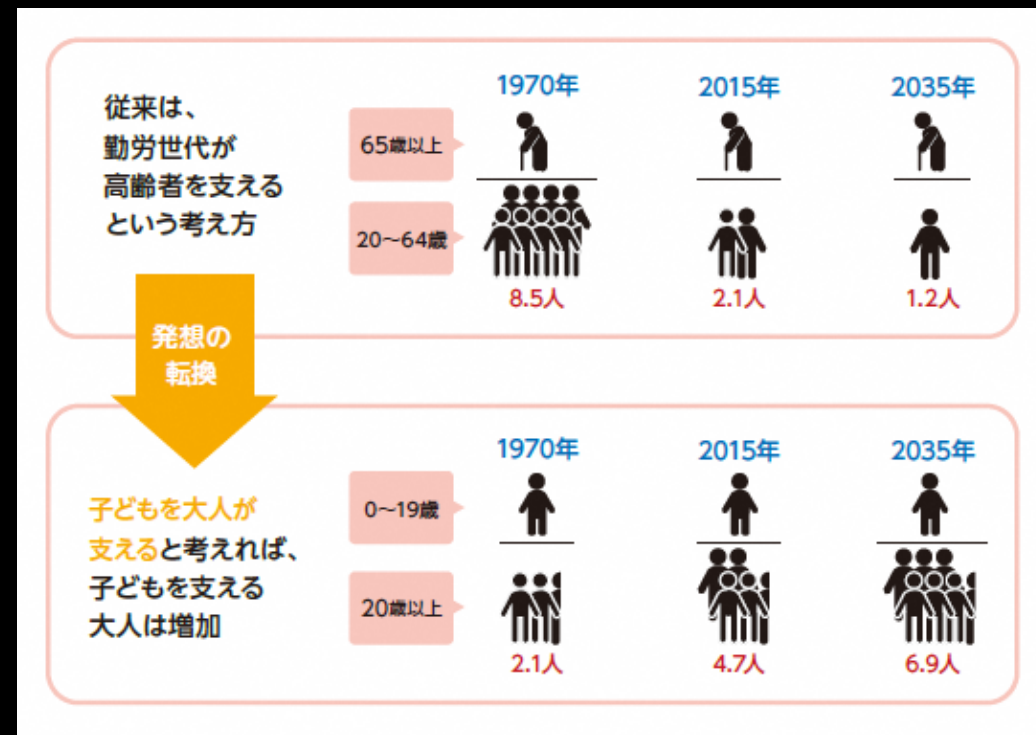
みんないいね！って言える変化

※注意 すぐには訪れない・・・結果的に

地域(黒部市)を考えていく上での確定事項



少子化
高齢化
人口減



ということは(地域の現状)...

担い手を育てるし、自分もやる。

(社協・地域も思いは同じ)

地域には、仕事と志事が必要。

(社協職員とNPOもやる@個人)

無いものはつくる。

(できることをやる、つくる)

みんなでやるしかない。

(ALL黒部:行政・社協・企業・社会福祉法人・NPO法人・ボランティア・市民 etc.)

地域の力



社会関係資本(social capital)をフル活用するしかない

福祉とは？

大雪で感じた「お互いさまの社会」





福祉の現場

福祉って持続可能なんですか？

【社会背景と現状】

簡単に言うと、人もいない、お金もない、余裕もない

○福祉人材の不足

全業界の人手不足、福祉(介護分野)に至っては増え続けるニーズに対して、キャパシティは大幅に足りていない。

○福祉の連携強化

国も社会福祉連携推進法人制度や小規模法人ネットワーク化事業などを展開し、法人連携の強化や事業統合、一元化などを進めている。

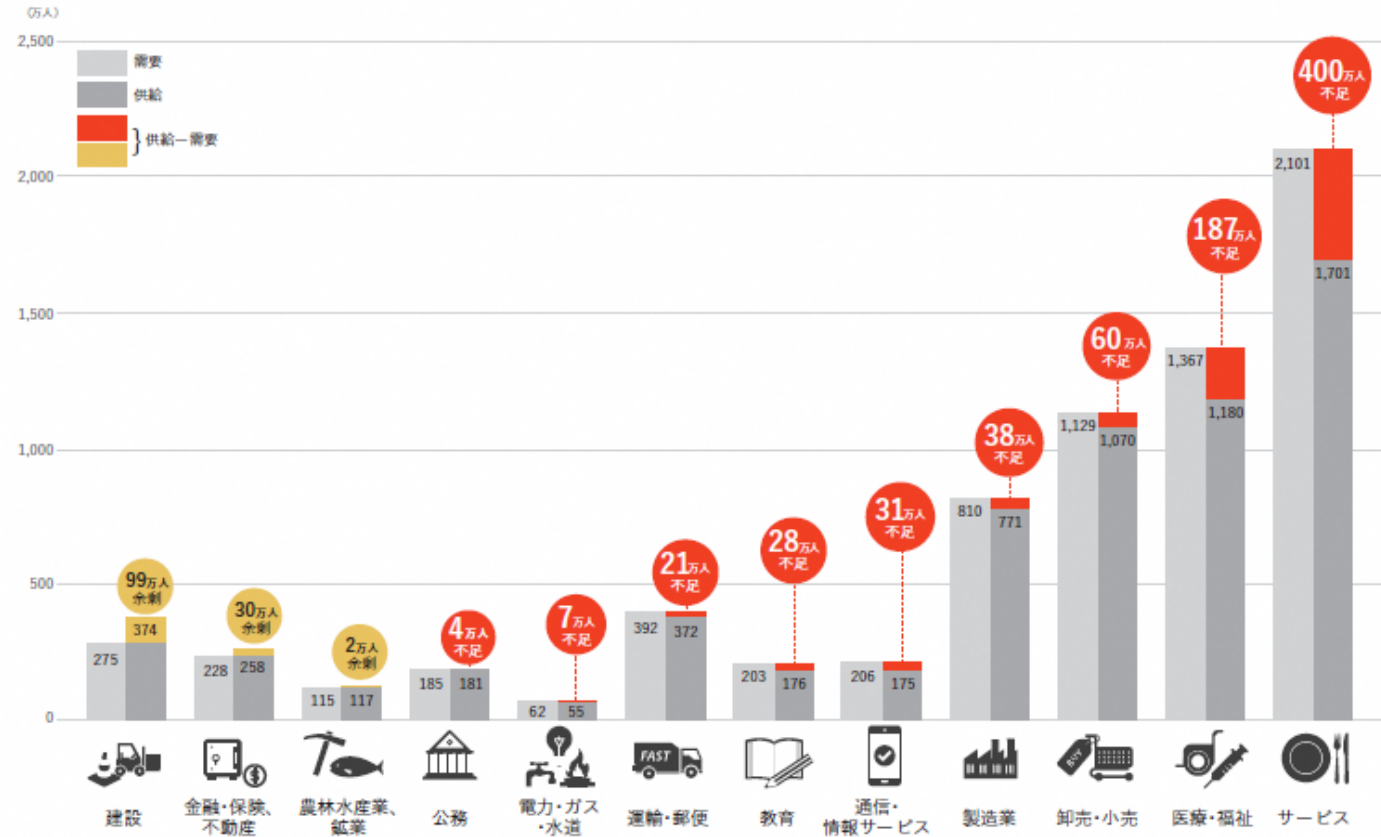
○データの活用

EBPMを重視した政策立案が必須。介護分野においても「ライフ」による支援データの蓄積をスタートしている。

人不足は本当か？

2030年にどのくらいの人手不足となるか？

産業別に見た人手不足



労働需要 日経センター「第44回 中期経済予測」における産業別実質国内生産額の2030年予測値から産業別のGDP予測値を計算。2010年以降の生産性向上ペースが2030年まで続いたと仮定し、GDPをその生産性で割って産業別の需要を算出。

労働供給 国民経済計算における2007年以降の産業別就業者数の増減ペースが2030年まで続いたと仮定し、産業別の就業者数シェアを算出。そのシェアを全体の労働供給に乗じて、産業別の労働供給を算出。

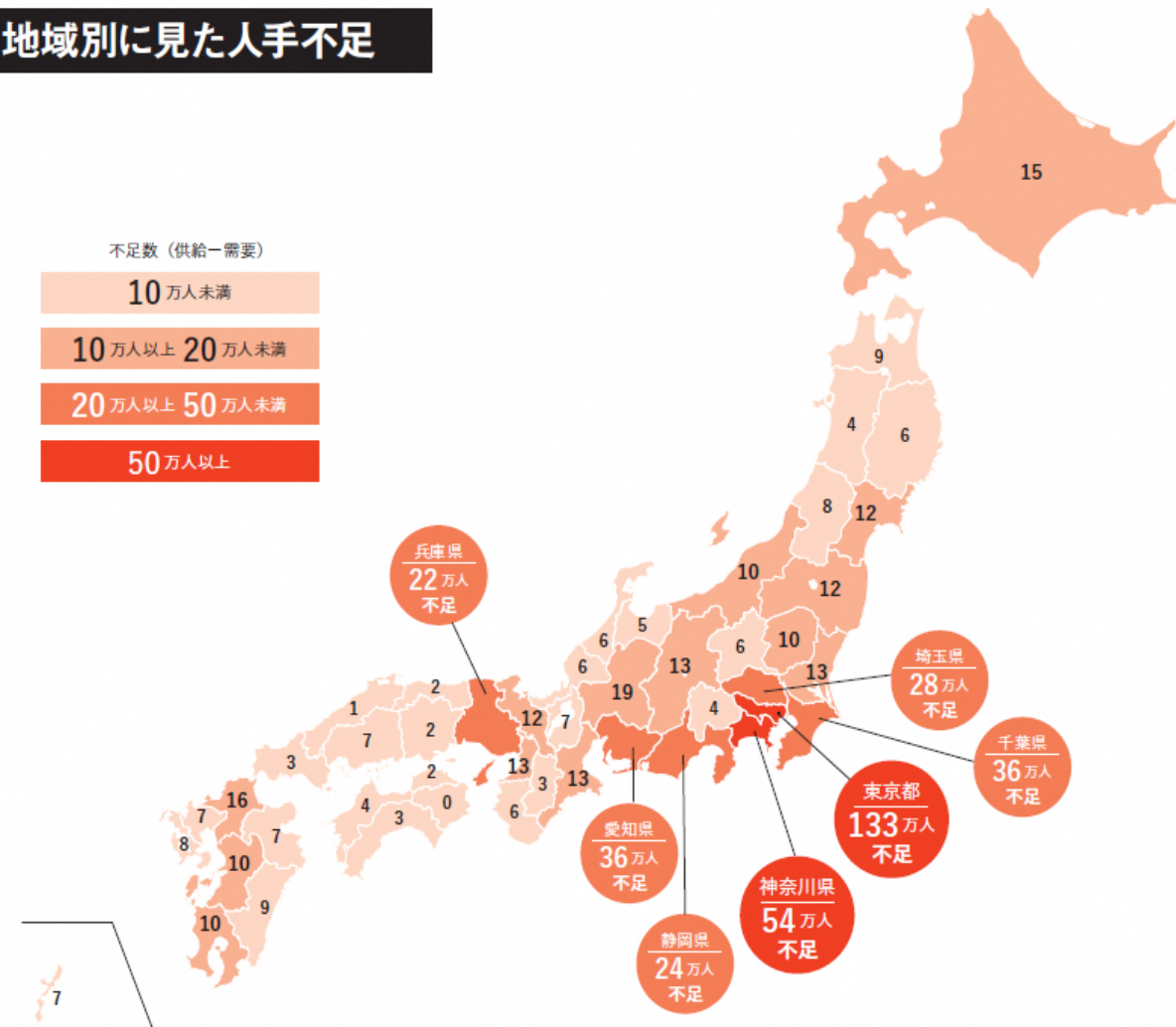
パーソル総合研究所・中央大学「労働市場の未来推計 2030」

187万人
不足



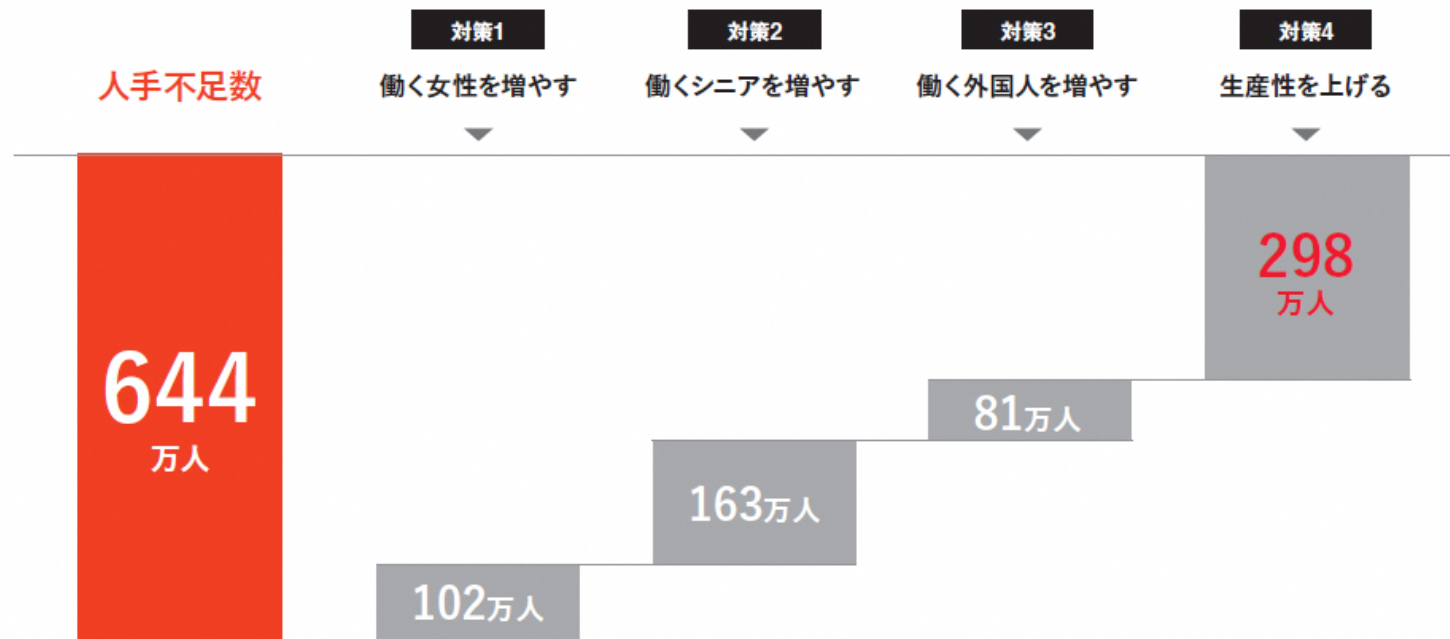
医療・福祉

地域別に見た人手不足



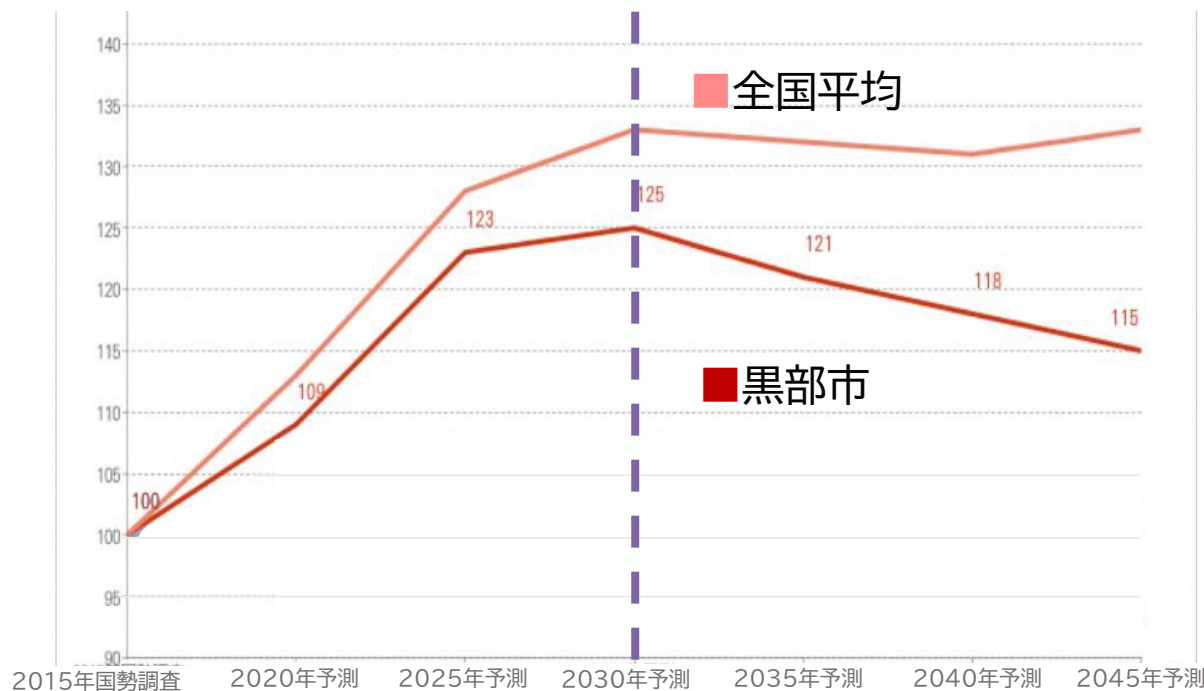
不足する前提での対策

644万人の人手不足をどう埋めるか？



介護・福祉業界の概況

【介護需要の予測】

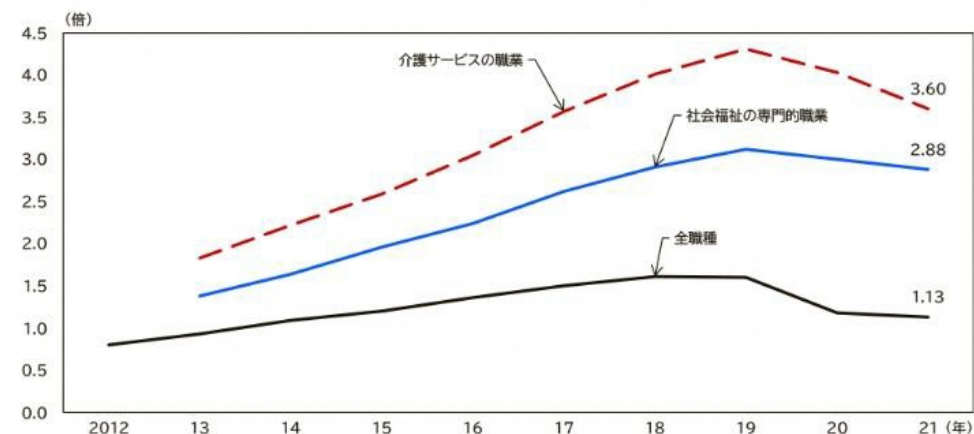


2030年まで需要増が続く

【有効求人倍率】

第2-(1)-5図 介護・福祉分野の有効求人倍率の推移

○ 介護サービス職や保育士等を含む社会福祉の職種の有効求人倍率は、全職種を大きく上回って推移している。



資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて作成

(注) 1) 実数を掲載している。

2) 「介護サービスの職業」は、介護サービス員、ホームヘルパーなどを指す。

3) 「社会福祉の専門的職業」は、ケースワーカー、介護支援専門員、スクールソーシャルワーカー、保育士、心理カウンセラー（社会福祉施設など）を指す。

4) 「介護サービスの職業」「社会福祉の専門的職業」の有効求人倍率は2013年以降の実績が公表されている。

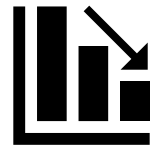
介護分野は全職種と比べて人材不足

福祉サービスの提供を受けるには？

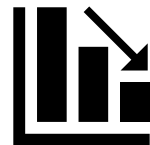
3択

国は、在宅へ ニーズは、入所へ

福祉人材の不足・経営難



自宅に行く
訪問介護/看護



施設に行く
デイサービス



入所する
入居型施設



単独経営(小規模模法人)では、
不採算、人材不足が起こりやすい。



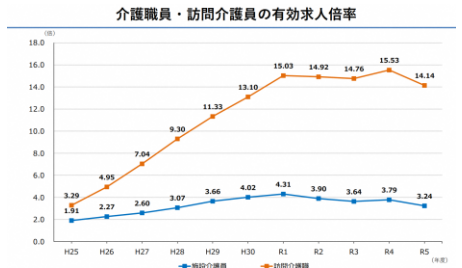
複数経営(大規模模法人)では、
不採算部門からの撤退。人材確保も重なり、入
居施設に力をシフトしている

根本的な問い①
なぜ、福祉分野の人材不足が起こっているのか？

全分野の有効求人倍率
1.31倍
2023年5月

福祉人材の不足
深刻度

有効求人倍率
14.14倍
2023年度ヘルパー



有効求人倍率
3.24倍
2023年度施設介護員



職場環境こそが人材不足の切り札

働きやすい職場・やりがいのある仕事

人材の定着・スキルアップ

サービスの質の向上

福祉サービスの持続可能な供給を行うためには、働きやすい職場づくりを軸に考えていく必要がある。

根本的な問い
なぜ、福祉分野の人材不足が起こっているのか？

国の方針
施設から在宅へ

規制緩和

小規模多機能型施設

サービス付き高齢者
住宅

自宅に行く
訪問介護/看護

施設に行く
デイサービス

入所する
入居型施設



小さな拠点には、それぞれ「人、モノ、金」を揃え、管理する体制が必要になる。



専門職の力が福祉サービスの提供以外で割
かれている可能性

集約すれば、一緒にできることもある。
エリア単位での連携や集約、最適化が必要である。

危機感

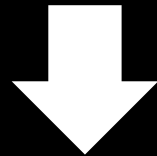
高齢福祉に投下されてきた予算が・・・

危機感

お金払ってもサービスは買えない

ピンチ (チャンスとも言う)

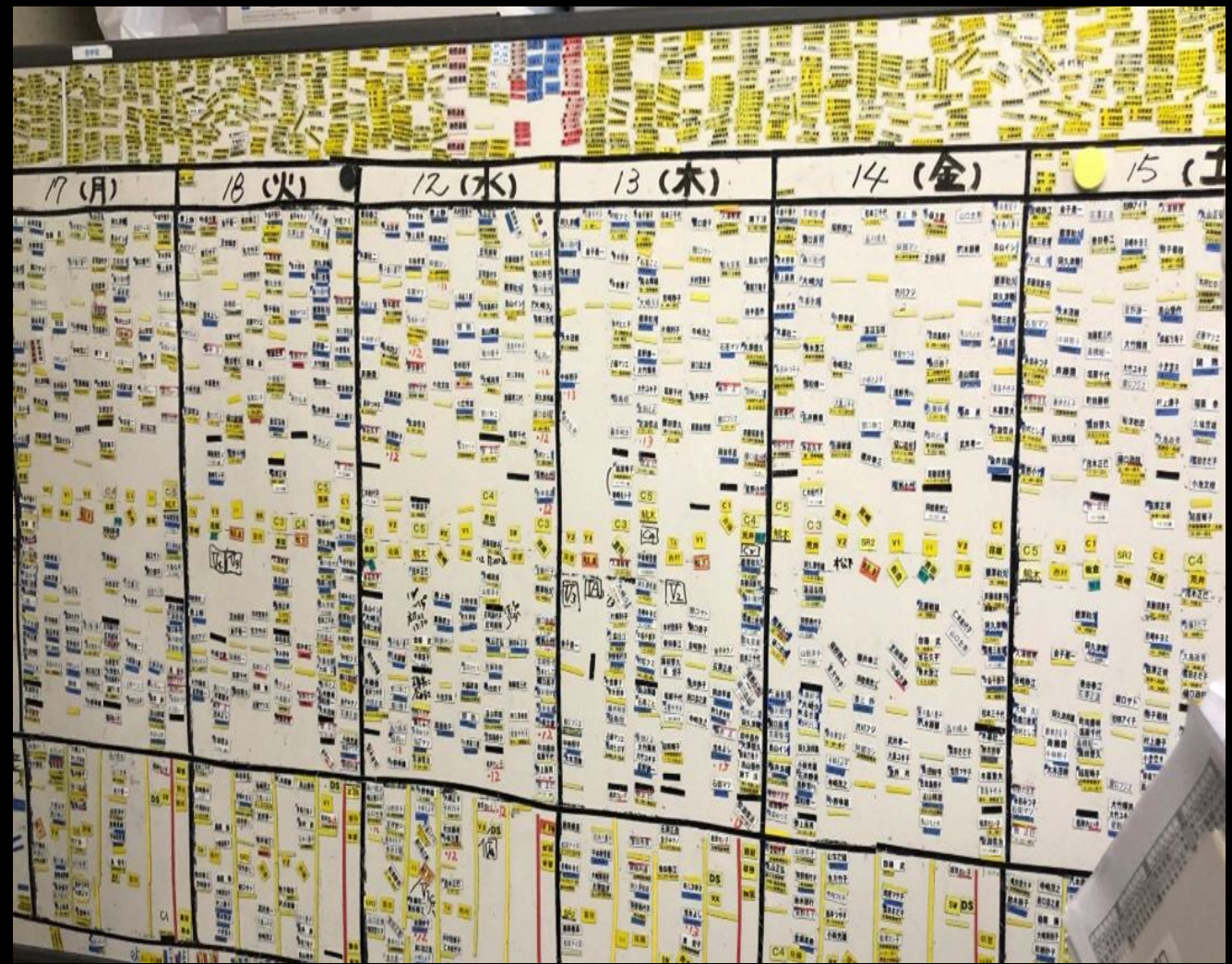
健康じゃないと損する



健康でいることの価値がより高まる

キーワード①

支援する人を支援する

[illegible]

神シフト！

キーワード②

次なる課題に先手を打つ



下山 紗代子氏

一般社団法人リンクデータ 代表理事
デジタル庁 データスペシャリスト

「Data is the new soil.」

データは石油ではなく、新たな「土壌」だ。デジタル社会をつくる上で様々なサービスを生み出し、育てるための基盤となる。

キーワード③

チャレンジできる環境

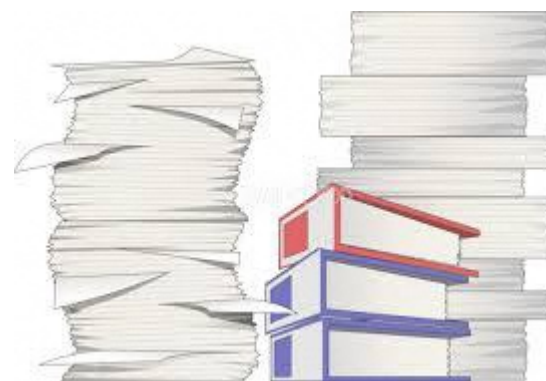
昔のIT環境

職場 > 家庭



今のIT環境

職場 < 家庭



Google



じゃあ、誰がやるんですか？

SMARTふくしラボがやります。



Community Drive プロジェクトの前身 地域の課題解決のシンクタンク

2022年4月設立。福祉分野のデジタル化ならびにDXの推進を目指し、黒部市社会福祉協議会で進めてきたシンクタンク事業の発展強化と広域的な活動を行う。

2021年度から地域の移動課題に注目し、トヨタモビリティ基金の助成を受け、3年間調査研究と実証実験などを実施。





2023年度国交省 共創モデル実証で採択

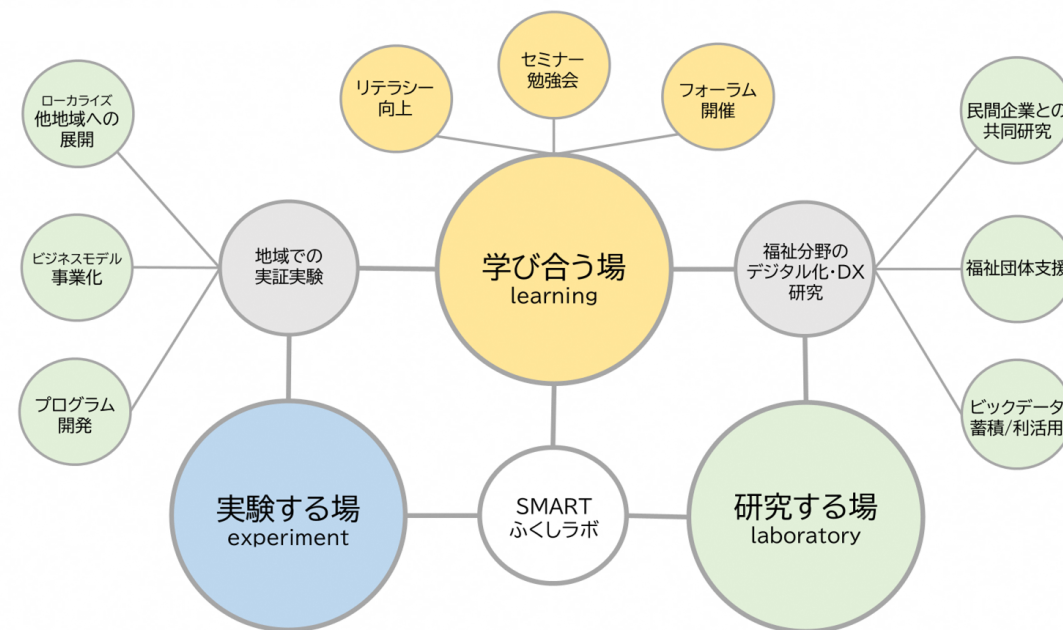
介護予防、外出支援、公共交通の活性化をハイブリッドに解決する『地域丸ごとデイサービス「Goトレ」』を開発

連携・共同研究
パートナー

35
以上
団体



大切にしている3つの場づくり



LINE WORKS

Toyota Mobility Toyama
トヨタモビリティトヤマ

共栄火災

一般社団法人ソーシャルアクション機構

Fukumitsu Taxi
福光タクシー株式会社

CivicTech Lab.

NICT
情報通信研究機構
National Institute of Information and Communications Technology

一般財団法人
CSOネットワーク

黒部市
CITY OF KUROBE

NIKKEN
EXPERIENCE INTEGRATED
日建設計総合研究所

jinjer
ジンジャー

TOYOTA
mobility
FOUNDATION

CODE
for JAPAN

黒部市社会福祉法人
会連合会

桜井交通株式会社

techsoup
日本

LinkData.org

社会をつくる活動力
日本Potenza

富山県
Toyama Prefecture

NIKKEN
EXPERIENCE INTEGRATED

NISSIN
SYSTEMS

TOYOTA
mobility
FOUNDATION

FL

社会福祉法人
黒部市社会福祉協議会

図解総研-

Social Mover

E/S®
Exa Innovation Studio, Inc.

株式会社
カナデル

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

一般財団法人
身体教育医学研究所
Physical Education and Medicine Research Institute

一般社団法人 社会と生活を支える企業
むすびえ

Blue Marble Japan

INOUE
Public System

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

And's Care

地域課題解決の取り組み

連携、協力、協働と人と言うけれど・・・

いろんなhappyがある、それぞれのhappyがある

営利・非営利・中立・公平・平等・ボランティア・ビジネスetc.

全横断的にかかわる移動課題

もし移動ということを考える必要が無くなったら...



路線バスを見て、
僕はいつも思う…

<平日の基本運行ダイヤ>

① 夏期(4月～9月)

1号車 (マイクロバス)	2号車 (中型バス)	3号車 (大型バス)	4号車 (マイクロバス)	5号車 (中型バス)
				
登校便 7:35 桜堤広場 7:45 犬山公民館 8:00 清明中学校	登校便 7:45 旧鷹施中学校 8:00 清明中学校	登校便 7:40 黒部温泉病院 8:00 清明中学校	登校便 7:30 上田家野公民館 7:40 黒部温泉病院 8:00 清明中学校	登校便 7:20 池尻バス停 7:25 笠破公民館 7:26 内生谷バス停 7:28 歌迎堂バス停 7:29 阿弥陀堂(旧農協支所) 7:31 尾山公民館 7:33 朴谷公民館 7:35 中陣公民館 8:00 清明中学校
A日課				
下校便 (第1便) 16:00 清明中学校 16:15 犬山公民館 16:25 桜堤広場	下校便 (第1便) 16:00 清明中学校 16:15 旧鷹施中学校	下校便 (第1便) 16:00 清明中学校 16:20 黒部温泉病院	下校便 (第1便) 16:00 清明中学校 16:20 黒部温泉病院 16:30 上田家野公民館	下校便 (第1便) 16:00 清明中学校 16:25 中陣公民館 16:27 朴谷公民館 16:29 尾山公民館 16:31 阿弥陀堂(旧農協支所) 16:32 歌迎堂バス停 16:34 内生谷バス停 16:35 笠破公民館 16:40 池尻バス停
下校便 (第2便) 17:30 清明中学校 17:45 犬山公民館 17:55 桜堤広場	下校便 (第2便) 17:30 清明中学校 17:45 旧鷹施中学校	下校便 (第2便) 17:30 清明中学校 17:50 黒部温泉病院	下校便 (第2便) 17:30 清明中学校 17:50 黒部温泉病院 18:00 上田家野公民館	下校便 (第2便) 17:30 清明中学校 17:55 中陣公民館 17:57 朴谷公民館 17:59 尾山公民館 18:01 阿弥陀堂(旧農協支所) 18:02 歌迎堂バス停 18:04 内生谷バス停 18:05 笠破公民館 18:10 池尻バス停
B日課				
下校便 (第1便) 15:30 清明中学校 15:45 犬山公民館 15:55 桜堤広場	下校便 (第1便) 15:30 清明中学校 15:45 旧鷹施中学校	下校便 (第1便) 15:30 清明中学校 15:50 黒部温泉病院	下校便 (第1便) 15:30 清明中学校 15:50 黒部温泉病院 16:00 上田家野公民館	下校便 (第1便) 15:30 清明中学校 15:55 中陣公民館 15:57 朴谷公民館 15:59 尾山公民館 16:01 阿弥陀堂(旧農協支所) 16:02 歌迎堂バス停 16:04 内生谷バス停 16:05 笠破公民館 16:10 池尻バス停
下校便 (第2便) 17:00 清明中学校 17:15 犬山公民館 17:25 桜堤広場	下校便 (第2便) 17:00 清明中学校 17:15 旧鷹施中学校	下校便 (第2便) 17:00 清明中学校 17:20 黒部温泉病院	下校便 (第2便) 17:00 清明中学校 17:20 黒部温泉病院 17:30 上田家野公民館	下校便 (第2便) 17:00 清明中学校 17:25 中陣公民館 17:27 朴谷公民館 17:29 尾山公民館 17:31 阿弥陀堂(旧農協支所) 17:32 歌迎堂バス停 17:34 内生谷バス停 17:35 笠破公民館 17:40 池尻バス停

スクールバスを見て、
僕はいつも思う...



駐車場を見て、
僕はいつも思う…

それでも思う、

自家用車は最強！

という前提を忘れてはいけない@地方都市において

59



移動

mobility

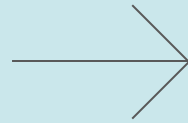




なぜ、地域の移動課題に取り組むのか？

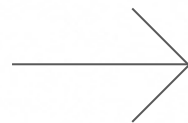
移動課題は全分野横断的な課題である

子どもが習い事に行けるかどうか
は、親が送迎できるかどうか



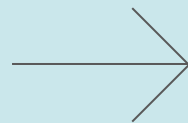
教育や体験機会を喪失する

高齢者の外出を支える公共交通が
縮小されると移動に困る



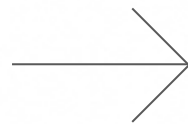
買い物、健康、生きがいづくりの
機会が失われる

公共交通を走らせるが
車社会中心で利用が進まない



行政の限りある財源の
有効な活用ができない

災害時(緊急時)に物はあるけど、
現場に届けることが出来ない



地域内の物流のしくみ

黒部の福祉の現場から見る課題

移動が伴うサービス

自宅に行く
訪問介護/看護

施設に行く
デイサービス

福祉人材が1日の業務のうち送迎に
3時間をとられてしまうこともある

移動が伴わないサービス

入所する
入居型施設

人材採用するにしても送迎業務が
ないことで人材が確保しやすい

在宅で暮らすことを支える福祉サービスが買えない時代が来る。
(もう、来ている)

黒部市に関する調査結果



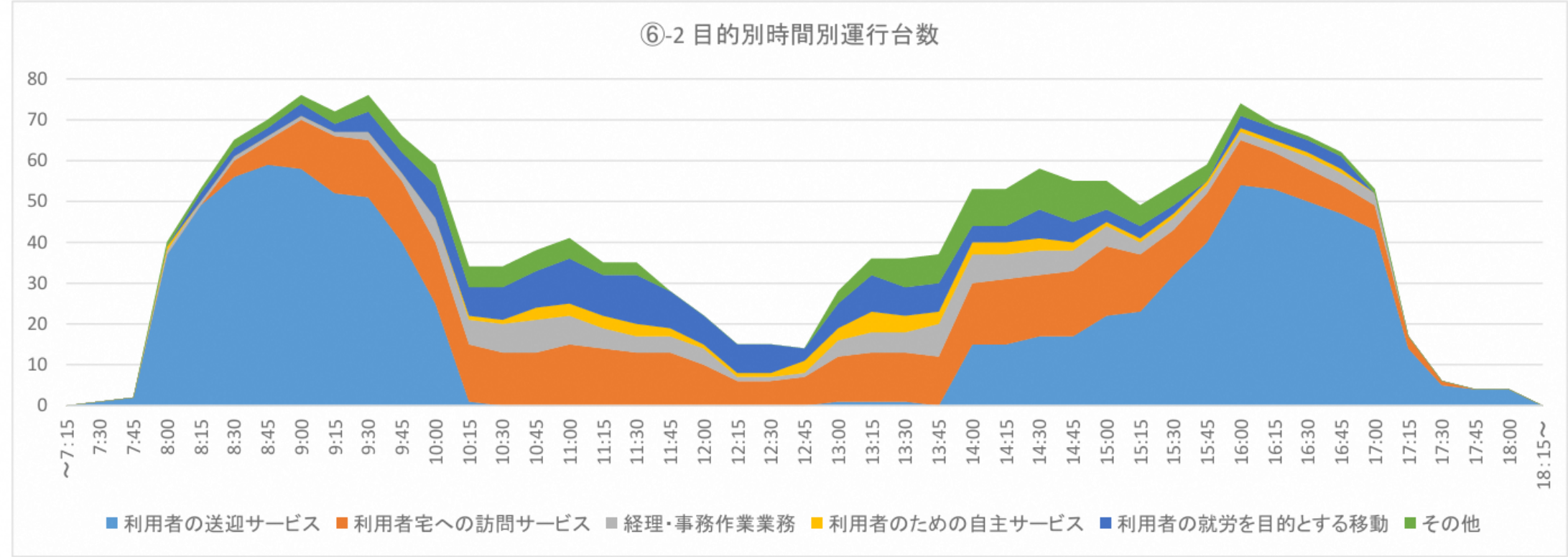
維持費は年間2億円、地域の移動手段は遍在



移動リソースを集約・一元化し、地域で利活用すべき

黒部市における福祉分野の車両運行の稼働実態調査(一部抜粋)

⑥-2 目的別時間別運行台数



課題感

移動課題は全分野横断的な課題なので、
特定の事業者や行政などが個別に対処して解決することは難しい

解決策

特定の領域(ビジネスだけとか、行政だけとか)だけではなく、
地域全体で協力して総合的なアプローチが必要

解決策を 実現するための 仮説

地域全体で協力するためには、
移動課題全体を捉えた事業と推進する事業主体としての
「共創でつくる新たな事業体」が必要なのではないか

自分たちのまちは、
自分たちで良くしていく

Nothing About Us Without Us !

参考資料

コミュニティドライブプロジェクトの取り組み

地域の移動はみんなで作る



*Community
Drive
Project*



NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED



プロジェクト参画組織



一般社団法人 SMARTふくしラボ

SMARTふくしラボは、福祉分野のデジタル化、DX推進、新規事業創発、シンクタンク機能を持つ組織です。地域の大きな課題である移動にフォーカスし調査研究を進め、2023年度には国交省の共創モデル実証の採択を受け、介護予防、外出支援、公共交通の活性化をハイブリットに解決する『地域丸ごとデイサービス「Goトレ」』を開発するなど持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



株式会社日建設計

日建設計は、建築・土木の設計監理、都市デザインおよびこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナル・サービス・ファームです。1900年の創業以来120年にわたって、社会の要請とクライアントの皆様の様々なご要望にお応えべく、顕在的・潜在的な社会課題に対して解決を図る「社会環境デザイン」を通じた価値創造に取り組んできました。これまで日本、中国、ASEAN、中東で様々なプロジェクトに携わり、近年はインド、欧州にも展開しています。



株式会社図解総研

図解総研は、ビジネスモデル、会計、共創、政策のような複雑な概念を共通の型で構造化して図解することで相互理解のコミュニケーションコストを減らし、多様なステークホルダー同士の共通言語を生み出すビジュアルシンクタンクです。これまでの主な書籍に「ビジネスモデル2.0図鑑」「会計の地図」「パーパスモデル」「政策図解」があります。また、介護の課題や地域の課題など、複雑な課題の構造を可視化し課題同士の関係を整理することで、何を解決するべきかの議論ができる土台を生み出してきました。

Community Drive プロジェクト 2025

黒部エリアにつづいて福山エリアでもプログラム開始

異なる特性をもった地域による広域連携でコミュニティドライブを多角的に推進

STEP 1 : 住民・企業・公的セクターを横断した対話・調査・可視化

STEP 2 : 見えてきた課題に対する小さな実証(マイクロプロジェクト)実践・共創

- 2025年2月 キックオフ開催
- 2025年7月 プログラムSTEP 1 開始予定

STEP 1 広島県福山市

中山間地域×都市部の複合構造



人口：約44万人

STEP 2 富山県黒部市

高齢化率32%
免許返納者多数



人口：約4万人

- 2024年7月 プログラムSTEP 1 実施
- 2025年7月 プログラムSTEP 2 予定

※この他にも、複数地域での展開に向けた協議が進行中

Community Driveプロジェクトとは

公共・企業・地域住民の各セクターに
地域（**Community**）の動きを加速（**Drive**）させる人材である
「コミュニティ・ドライバー」がいることを目指します

そのために、「住民の主体性」と「地域の合意形成」を地域に生み出す対話、調査、可視化、実行を組み合わせたプログラムを提供します

※コミュニティドライバーは運転手だけを指すのではなく、地域の移動課題解決に主体的に取り組んでいく人材のことです

地域の身近なところに
集いの場を
開催している

こどもが、車を運転で
きない親に買い物をし
てきてくれる

町内の高齢者の方々が
学童の通学の見守り、
あいさつ、声かけを
してくれる

近所の人スポーツ
少年団の送迎を
してくれた

長野県では行政が
看護師を車にのせて
地域に運んでいる

近所の人、実家の母
を買い物や病院に連れ
て行ってくれる

交通事業者として、
もっと住民の声を
聞いていきたい

車椅子の自分の外出す
るための支度を友達
が手伝ってくれる

鉄道を活かした
まちづくりを
考えている

会社でお弁当屋さんの
代わりに高齢者の食材
の配達と見守りをして
いる

娘であるわたしが
祖父の免許返納を
サポートした

お祭りのとき近所の人
たちをまとめて
輸送した

いとこ同士で土日にお
互いの子どもを
送迎している

コミュニティ・ドライバー

地域の動きを加速させる人

Community

Drive

会社として車がなくな
ると暮らしやすいウォ
カブルな街づくりに取
組んでいる

ちょっとした困りごと
を解決するための住民
同士の助け合いサービ
ス始めた

妻とママ友が大型SCへ
の買い物の運転を交互
に行った

子どもの習い事の
送迎を友達が代わって
くれた

雪の日に近所の道を率
先して雪かきする

NPOが有償ボラン
ティアで移動支援をし
ている

ヘルパーさんが高齢者
の家に行き買ってきて
欲しいものを聞き買い
物に行く

バス会社の運転手が同
じグループ内の給食会
社の食事を運んでいる

私(交通協議会委員)が町
内の公共交通のお困り
ごとを聞き議会で発言
する

黒部市が毎年公共交通
に関するニュースレ
ターをつくって
全戸配布している

ボランティア団体が災
害支援物資を運んでく
れた

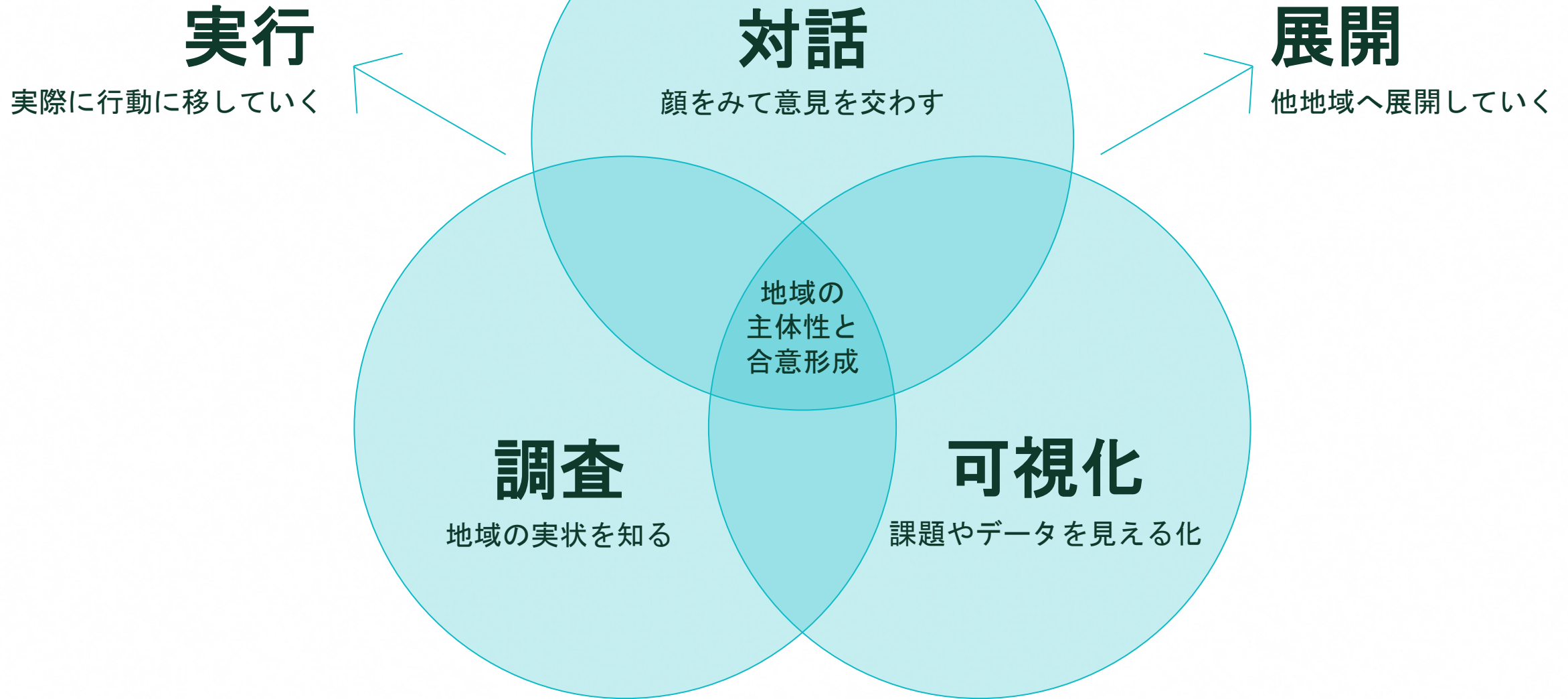
プロジェクトメンバー





移動課題を解決するサービス開発から始めるのではなく、
「コミュニティをドライブする」ことから始める。

プロジェクトの全体像





対話

顔をみて意見を交わす

- ・ 地域住民、企業、行政の方にそれぞれお話を聞く会を開催
- ・ 多様な立場の方を一同に集め、お互いの立場を越えた議論



調査

地域の実状を知る

- ・ 地域住民の移動経路を調査
- ・ 企業に車両保有台数や用途、課題感などを聞き取り



可視化

課題やデータを見える化

- ・ 様々な意見、課題の本音を聞き取り、AIで解析し分析
- ・ 地域の移動の課題を見える化



実行

実際に行動に移していく

- ・ 上記3つの活動で地域の主体性と合意形成を築き、みんなで移動の課題をどうできるか、解決策を小さく実行していく



展開

他地域へ展開していく

- ・ 上記4つの活動を全て統合し、他地域でも汎用性のあるツールやプログラムを企画開発
- ・ 今後他地域での展開を行う予定



行政向けWS

参加者数

23人

年代・属性

30~70歳

出てきた課題の数

27件



参加者数

161人

年代・属性

12~75歳

移動実態調査

79件

地域住民向けWS



参加者数

47人

年代・属性

35~50歳

ヒアリング調査

24件

企業向けヒアリング/WS



可視
化

調査

対話



ミライドライブワークショップ

活動まとめ

全体

メディア掲載

12件

新聞・Webメディア掲載

活動への関心が深まった人

94%

参加者アンケート

コミュニティドライバー

10名以上

一緒にCDPJやると言ってくれた人

対話

対話の場への参加

230名超

ワークショップ・ヒアリングなど

参加者の年代

12～75歳まで

小学生からご年配の方まで

コミュニティドライブ数

154件

地域の移動の自助,互助,共助,公助

調査

集まった本音の数

154名 245件

ホンネPOST投稿数

住民向け移動の実態調査

79名 164件

モビ地図記入者数

企業向けヒアリング調査

24件

企業向けヒアリング&フォーム回答

可視化

可視化された課題の数

115件

マップへの課題掲載数

課題に対する共感シール

236枚

マップへ貼られた共感シールの数

新たに貼られた課題の数

59件

課題マップに貼られたふせん

公共的な移動

鉄道やバス、タクシーなど、
制度・規制・補助がある移動

公共・企業の共創
実験的事業

公共・住民の共創
実験的事業

共創でつくる移動

多様な主体が対話を重ね、資源と関係性を
つなぎ直して共に設計する新しい移動

企業や民間の移動

企業や民間団体が業務や物流のために保有・
活用してきた仕組みによる移動

生活のための移動

自分や家族、近隣住民の送迎や助け合いに
よって成り立ってきた日常的な移動

企業・住民の共創
実験的事業



未来の移動を、みんなで研究し、みんなで創る
ラ ボ

モビLAB@KUROBE基地

始動！

未来の移動を、みんなで研究し、みんなで創る

ラボ

モビLAB@KUROBE基地

ラボ

モビLABってなあに？

モビLAB@KUROBE基地は、「地域の移動はみんなで作る」を合言葉に、黒部地域の“移動のナゾ”（具体的な課題）を解き明かすための研究拠点です。課題解決というミッションに、発見の楽しさと知的な興奮を盛り込み、より快適で楽しい移動の実現を目指します。

誰が参加できるの？



専門知識は不要！どなたでも参加できます！



2025年は、3つの〇〇説を軸にマイクロプロジェクトを推進

①住民の意識一つで
公共交通の利用は
増える説



②公共交通を活用すれば
どこからでも介護サービス
は受けられる説



③助け合いサービスで
ちょっとした困りごとが
解決する説



黒部の移動をみんなでもっと楽しく・快適に変えていく



Community
Drive
Project

モビLAB黒部基地に集まってくれた

- ・コミュニティドライバー(=研究員)
- ・〇〇〇研究員
- ・参加者(=研究員)
- ・関心を持って来てくれた人(=研究員)



チームメンバー

- ・一般社団法人SMARTふくしラボ
- ・Co mobility Lab（株式会社日建設計）
- ・株式会社図解総研
- ・一般社団法人コミュニティドライブ
- ・株式会社Liquitous
- ・その他、各分野の専門家

マイクロプロジェクトの成り立ち

モビLAB@KUROBE基地

黒部地域の「移動の謎」（具体的な課題）を解き明かすための研究拠点

移動に関心を持つ
すべての人が
「研究員」

地域住民、企業、行政、コミュニティドライバーなど

それぞれの視点や専門性を活かす

謎の核心にある「〇〇説」を提唱

マイクロプロジェクトという
「実験」を通じて検証

課題解決に、発見の楽しさと知的な興奮を盛り込み、より「快適で楽しい移動」の実現



私たちの「謎」を探求しよう

「〇〇説」の検証

初期マイクロプロジェクト3つの説

介護送迎PJ

公共交通を活用すれば
どこからでも
介護サービスは受けれる説



助け合いサービスPJ

助け合いサービスで
ちょっとした困りごと
解決する説



住民意識改革PJ

住民の意識一つで
公共交通の利用は
増える説



これらの研究を進めながら並行して
次なる研究テーマの発掘と参加者発のプロジェクトを歓迎する体制を整えます

CXOの例…こんな人必要かも

アイデア・企画系

最高アイデア責任者 (CIO - Chief Idea Officer)

役割:新しいアイデアや面白い企画をどんどん出す。

最高妄想責任者 (CDO - Chief Delusion Officer)

役割:「できたらいいな」という突拍子もない夢や妄想を語り、議論を広げる。

最高計画責任者 (CPO - Chief Planning Officer)

役割:出てきたアイデアを、実現可能な計画に落とし込むのが得意。

最高俯瞰責任者 (CBO - Chief Bird's-eye-view Officer)

役割:議論が細くなった時に、全体像や本来の目的に立ち返らせる。

対話・連携系

最高傾聴責任者 (CKO - Chief Keicho (Listening) Officer)

役割:チームメンバーの話を深く聞き、意見を引き出す。

最高質問責任者 (CQO - Chief Question Officer)

役割:「なぜ?」「それってつまり?」と良い問いを投げかけ、議論を深掘りする。

最高巻き込み責任者 (CMO - Chief Makikomi Officer)

役割:チーム外の人や地域の人を、プロジェクトに巻き込むのがうまい。

最高共感責任者 (CEO - Chief Empathy Officer)

役割:メンバーの気持ちに寄り添い、チームの心理的安全性を高める。

実行・行動系

最高行動責任者 (CAO - Chief Action Officer)

役割:計画を立てるだけでなく、まず一歩を踏み出す行動力がある。

最高推進責任者 (CPO - Chief Propulsion Officer)

役割:決まったことを着実に前へ進める力、推進力がある。

最高“とりあえずやってみる”責任者 (CTO - Chief "Torieazu Yatteru" Officer)

役割:失敗を恐れず、まずは小さく試してみる実験精神の持ち主。

情報・記録系

最高記録責任者 (CDO - Chief Documentation Officer)

役割:会議の議事録や、プロジェクトの活動記録をきちんと残す。

最高発信責任者 (CHO - Chief Hasshin (Broadcasting) Officer)

役割:チームの活動をSNSなどで分かりやすく、魅力的に発信する。

最高情報収集責任者 (CIO - Chief Information-gathering Officer)

役割:必要な情報やデータを集めてくるのが得意。

場の雰囲気づくり系

最高ムードメーカー責任者 (CMO - Chief Mood-maker Officer)

役割:チームの雰囲気を明るく、楽しくする。

最高笑顔責任者 (CSO - Chief Smile Officer)

役割:チームのメンバーを笑顔にさせる存在。

最高ツツコミ責任者 (CTO - Chief TSUKKOMI Officer)

役割:鋭いツツコミで、議論を活性化させたり、場を和ませたりする。







「共創でつくる移動」を実現させるために 必要な3つのこと

人づくり

発掘と育成



主体づくり

役割分担から共創

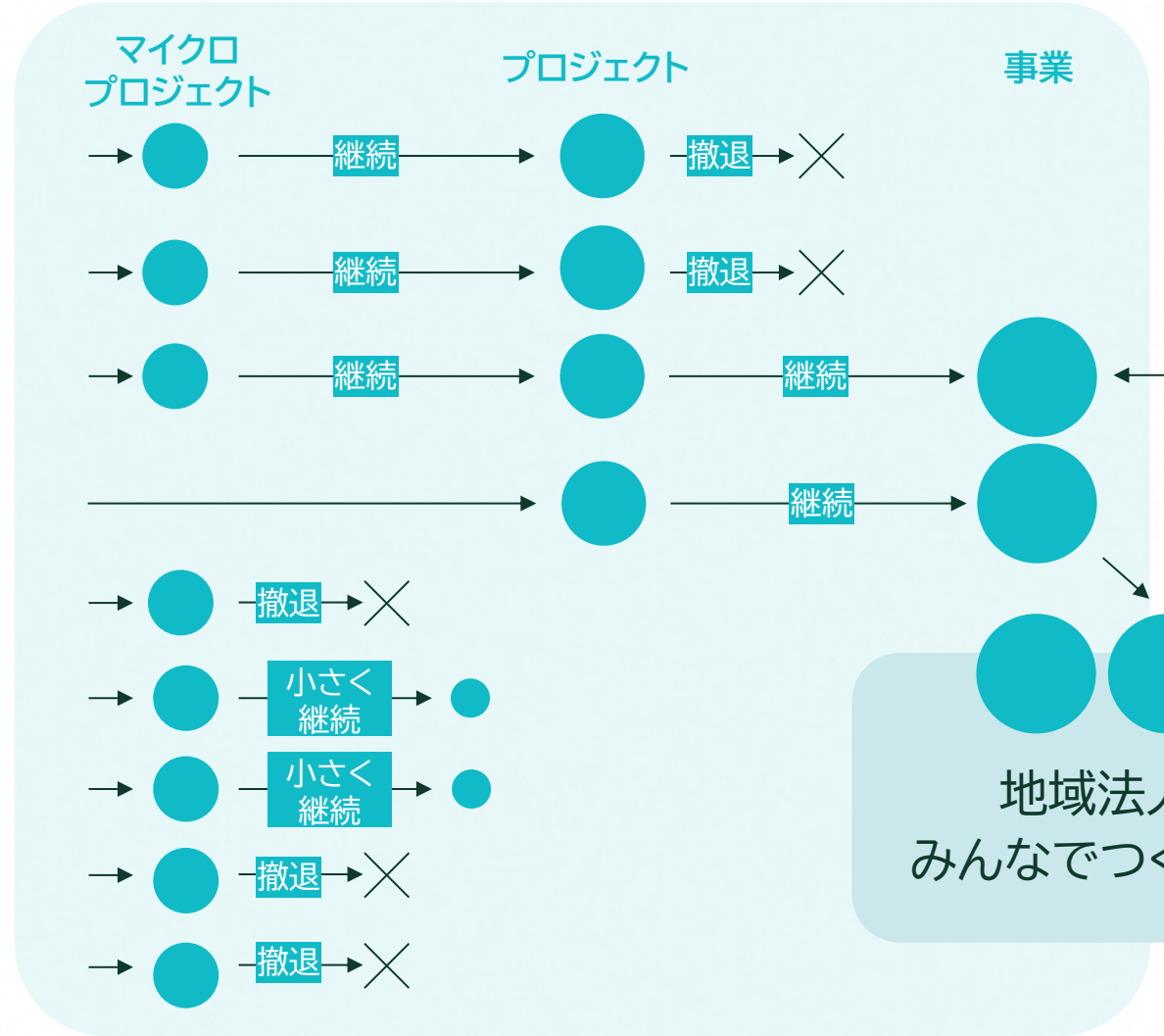
マインドセット

誰かがではなく、私たちで

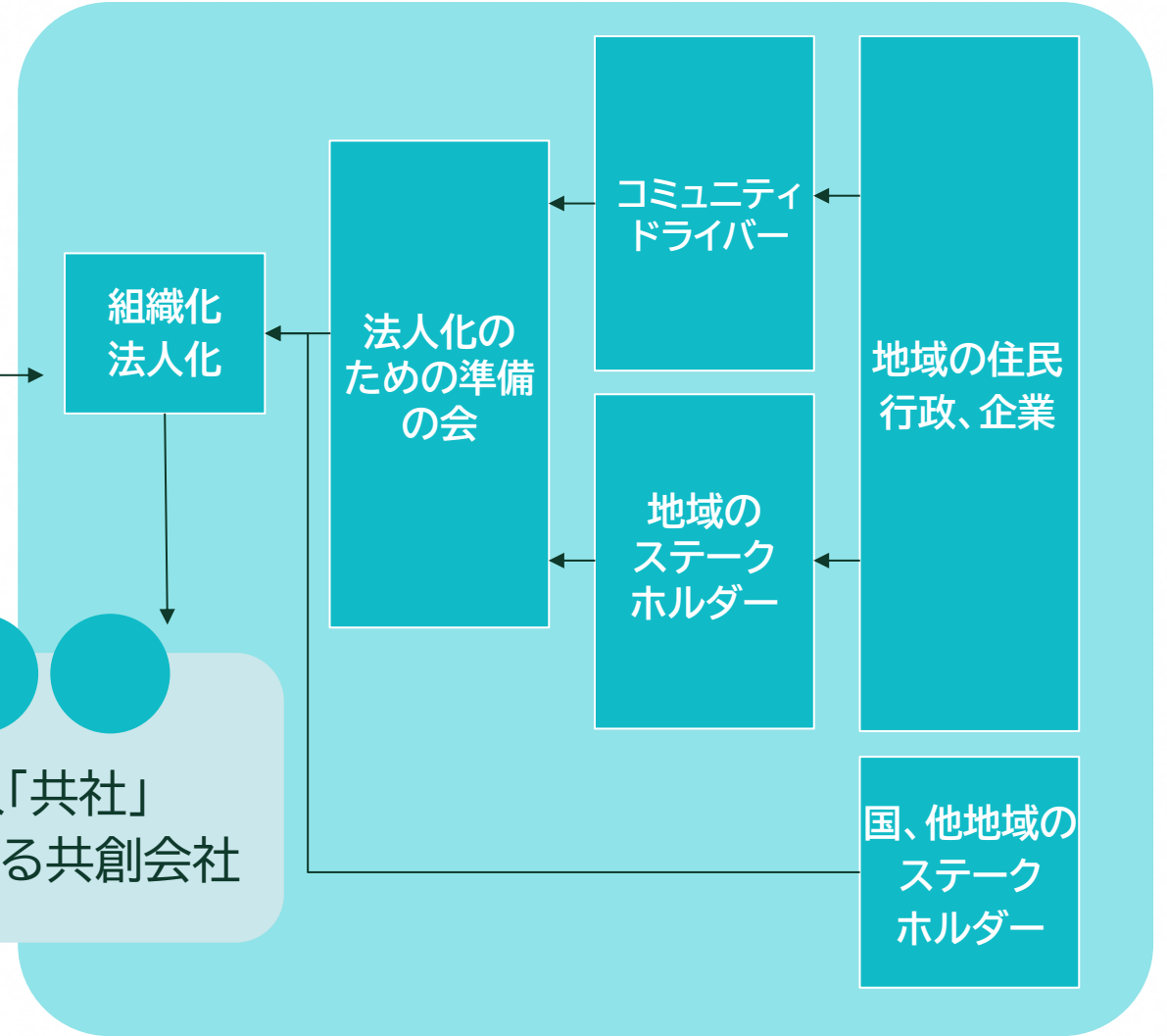


事業化と組織化を両軸から進めて地域の事業主体となる受け皿をつくっていく

事業化



組織化(本事業において実施)



自分たちのまちは、
自分たちで良くしていく

Nothing About Us Without Us !